広報 あかいけ

発行所　赤池町役場　編集　総務課大谷孝進　No.１２２号

町の人口
（１２月１日現在）

総人口	8，980人
男子	4，225人
女子	4，755人
世帯数	2，653世帯

1972

あけまして
おめでとう
ございます

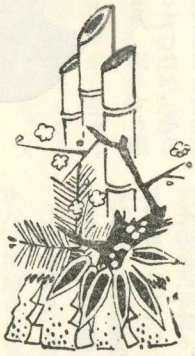
一年の計は元旦にあり

ことし１年間の計画は元旦を期して立てなければならないと言うことです。この計画はことし１年の生活をよくもするし、わるくもするということをさとした格言です。

町民の皆さんは元旦にどんな生活設計をたてられたでしょうか。わたし達は、この「コトワザ」にならい、大いに〝がんばって〟いっそうあらたな生活の設計を立て健康で幸せな生活を築くよう努力したいものです。

〔写真は、よい子のカルタ取り〕

賀正



赤池町長　木村繁太郎
助役　椿原誠
収入役　太田達彦
町議会議長　井上牛之助
副議長　早麻豊
議員　宇都宮重次
立花杉夫
西村正人
宇野清友
山下次
十時募男
太田亀作
伊川重彦
小松千太郎
小松清
池田文
太田治
定宗義
船津勝男
池田勇
浦田隆

（議席順　敬称略）

年頭の挨拶

赤池町長　木村繁太郎

明けましておめでとうございます。

新しき良き年を皆様と共に寿ぎ得ましたことは何よりも慶びにたへません。

顧りみますれば、昭和四十六年の本町は、突如伏原地区に地すべり災害をもたらせ家屋の倒壊、被難した十九世帯幸いにして住民の皆さんに犠牲者が出なかったことは幸いであったと存じます。

又再度地すべりを防ぐため二度に亘り自衛隊施設大隊に応急防災工事の受託によって工事が完成し、皆様と共に新しい歳を迎えましたことは一重に町民皆様のお蔭と感謝しております。

次に当初計画致しました事業も順調に推進できたことを私をはじめ職員一同心から感謝致しております。昭和四十六年度に町がした主な事業は

（緊就事業）

○原・薬王寺線舗装工事
○松木園・皿山線舗装工事
○水落・郷の谷線舗装工事

（開就事業）

○先達免・伏原線舗装工事

（失対事業）

○石松・上蔵志線舗装工事
○上桜・獺ケ谷線舗装工事
○小路・土井首線舗装工事
○切寄・丹波ケ浦線舗装工事
○伏原・北町線舗装工事
○役場裏駐車場舗装工事
○貴船迫・岩屋線舗装工事

（鉱害復旧）

○大和町下水路工事
○飛車篭下水路工事

（同和対策）

○忠衛門権改良工事

（過疎事業）

○小路・寺ケ谷線舗装工事

（公営住宅）

○赤池団地十八戸建築
○大浦・赤池同和団地十二戸
○伏原改良住宅四十八戸・現在工事中

（低環整備）

○東町排水路整備事業、現在工事中

（学校施設）

○上野小学校体育館改築

私は就任以来常に本町を如何に発展させ住みよい明るい町づくりを目標に、町政に取り組んで参りましたが、月日の流れは早いもので、私が昭和三十九年に町長に就任して今日まで七年と十一カ月になり、これまで議会の皆さん、町民各位を始め、郷土愛に燃ゆる本町出身の大蔵政務次官田中六助先生の特別の御配慮と御支援、いたらない私どもを助けご協力いただいたからこそ、各種事業が推進でき、大過なく任期を迎えることができましたことを心からお礼申し上げ感謝の意を表わしたいと思います。

最後に、町の理想郷建設へ数多くのご声援をいただいた町民の皆さんに心から感謝を申しあげ、こん後の御健康と御多幸を祈念して新年のご挨拶と致します。

赤池町助役　椿原誠

赤池町の皆さん

明けましておめでとうございます。

新しい歳を迎えますと、すべてのものがみな新しくなったような感じがいたします。

私は年頭における清新の気を一年の間持ち続け、ことしも又民主的で能率的な町政を打ち立てるとともに、よりよき郷土、より豊かな生活を築きあげることに力いっぱい働きたいと念願しているものです。

地方自治の今日の問題はめざましい社会経済の発展に対処し如何にして、これに即応した地方行政水準を確保し、住民経済の伸張と福祉増進をはかると言う点にあると言われて居ります。

「一年の計は元旦にあり」などと申しますが、いかにすぐれた計画を立てても、実行されなければ絵に描いたモチも同じでありますので、ことしもじっくりと理想的な町造りの基礎を固めてゆきたいと思っています。

年頭に際し、町勢の発展に与えられた責務の最善をつくすことを誓うとともに皆さんの御健康と、御多幸を心からお祈りして新年のごあいさつといたします。

赤池町議会議長　井上牛之助

町民の皆さん、明けましておめでとうございます。

ここに希望に輝く新春を迎えるに当たり皆様方の御清福と御繁栄を心からお祈りいたします。

私は昨年五月、図らずも議長に就任致しましたが、その後議会の円満な運営と町政の伸展を第一義として、誠心誠意努力をしてまいり、お蔭をもちまして大過なく越年することができました。

これはひとえに皆さま方の御支援と御協力のたまものと心から感謝の意を表するしだいであります。

顧みますと昨年は中共国連加盟、ドルショック、航空機事故、大久保清事件、沖縄国会、印パ戦争等、国の内外において波乱の多い年でありました。

実は本町伏原において地すべり災害が発生し、地域の方々に御迷惑をかけましたが自衛隊の二度に亘る応急防災工事によって危険が除外されました事は誠に御同慶に堪えません。

しかしながら住民の福祉を増進し、住民生活の安定を図るには、なお重要問題が山積しております。

その解決を図るには直接行政を担当するわたし達に課せられた大きな責務であります。

わたし達は町勢振興のパイプ役である田中代議士を軸として今年度以降の新ビジョン達成のため町執行部と共に最大の努力を払う所存でありますので何卒倍旧の御指導と御鞭撻をお願い申し上げます。

年頭に当たり、いささか所感を述べて御挨拶といたします。

自衛隊の排土工事で中断した道路工事
―一月から続行―

陸上自衛隊飯塚駐とん地の第一〇八施設大隊による排土工事が十二月一日から始められていましたが、このほど完成し、赤池町に自衛隊から引き渡されました。

こんど行なわれた工事は、小竹～赤池バイパスに取り付ける先達免～伏原の工事が災害によって中断したところです。

町ではこの土砂を取り除く経費を、県や国に対し、要請して来ましたが、災害救助法に該当しないとの理由で、町では単独で、工事を行なわなければなりませんでした。

先の災害で、町では自費約一千万円を支出し、財政に大きな打撃を受け、財政事情は貧ぱくしています。町は毎年タバコ消費税、年間約一千万円の間接税に依存していることは住民の皆さんにはよくご存じと思われます。

こんどの工事は町が単独で行いますと約一千万円の経費を計上しなければなりません。

このように苦しい財政のうちから中断した工事を難なく続行することは不可能なことであります。

上は、自衛隊から木村町長に工事完了受領書が渡された　下は、応急防災工事が完成した道路

従来町が事業をする場合、国や県の補助金や起債によって整備されていますが、伏原災害の起債は全面認められず借ることはできませんでした。

したがって町では、県や国を通じ自衛隊に受託工事を要請し厳しい条件審査でしたが工事着工の設可が認められ、十二月一日から始めましたが工事は予定通り進められました。この能率の向上は、統制のとれた節度のある規律訓練の外は何もないと思い痛感しました。

作業はすべて機械化による機敏な動作で進められ、こんどの工事に参加した隊員は二十九名で延べ人員にしますと八七〇名の隊員が従事したことになります。

午前八時点呼とともにブルトーザー二台、ショベル一台ダンプトラック五台が、けたたましい音をたてながら動きだし、作業は厳しく計画通り進められ、土砂をトラックで運搬する時は、距離は短かく附近に人家はなくても、トラックの荷台をホロで一回～包んで運搬し、このような気づかいは規則ある訓練にあると思われます。

工事も予定通り順調にすすみ、排土量、四千リューベの土、六トン車のトラック約五百台分の土を排土することができ、十二月二十二日に工事が完成しました。自衛隊による排土工事が完成しましたので中断していた請負による道路工事が一月から始められ、三月末には簡易舗装道路ができあがります。

伏原地区の災害地の皆さんは道路が斜断したため、通行は迂回（うかい）するなど大変不自由であったと思われますが、いましばらく工事にご協力下さい。

又、こん後災害が再び発生しないように農林省関係の治山事業として防護壁工事を県営住宅側と、伏原地区側に建設致します。文の中で起債と治山の文字がありますが、この解訳は（起債）町が色々な工事を行うとき、国からお金を長期間（利息付）借る。又（治山）は山が地すべりや土砂くずれなど防ぐことの意味です。

昭和四十七年一月二十日任期満了に伴う町長選挙を次の要領で行います。

一、選挙の告示日　一月十一日
一、選挙日　一月十八日

町長選挙は一月十八日

※ 選挙人名簿登録該当者

一、昭和二十七年一月十九日までに生れた者
一、昭和四十六年十月九日までに転入届をし、引続いて住民基本台帳に登録されている者。

※ なお立候補の受付は次の通りとなっています。立候補受付は、一月十一日と十二日の二日間です。その他くわしいことは赤池町選挙管理委員会（役場）までお問い合せ下さい。

納税成績優良町として授賞

十一月二十六日県会議事堂に於て、知名人多数出席のもとで、赤池町が納税成績優良町として、県知事より表彰を受けました。

この受賞に、県下九十九市町村中で六市町村のみが受賞したものです。

この輝やかしい成績を納めることができましたのは、一重に町民の皆様また納税組合長様方の御理解と御協力の賜と、衷心よりお礼申し上げます。

今後は尚一層この成績の高揚に励む所存でございます。このうえ共に御支援の程お願い申し上げます。

優良納税組合を表彰

十一月二十六日赤池町中央公民館に於て、第十六回納税組合総会を開催し、各組合長多数出席のもとで、納税成績優良組合長並びに優良組合を左記のとおり表彰しました。

記

一、納税組合長表彰（敬称略）

1常福納税組合長　浦田鷹彦 2鋤木田納税組合長　柴田守 3大浦納税組合長　小松君雄 4草場上納税組合長　山口利郎 5草場下納税組合長　日高邦夫 6上ノ原納税組合長　中村広頼 7本町三納税組合長　山本麻生 8昭和町納税組合長　青野昌夫 9暁町納税組合長　本島一郎 10県営伏原納税組合長　大井清人

二、納税組合表彰

1上小路納税組合 2下小路 3中里 4山崎 5春田 6八ノ三 7本町ノ一 8大和町ノ一 9大和町ノ二 10車道ノ四

お年寄りに明るいニュース〝年金額のアップ〟

昭和四十五年一月から、年令が満七十五才に達したお年寄りに、敬老年金が年額にして三千円支給されるようにないました。

きょねん十二月議会に改正する条令が提出されました。こんど引き上げられる金額は五千円で、受給資格は、満七十五才以上のお年寄りで、赤池町住民基本台帳に三カ月以上記録されている者に年額五千円支給されます。

又受給されない者は、年間所得が百万円以上ある者、禁固以上の刑に処せられたとき死亡したとき、町の住民でなくなった時又年の中途においては受給権利が消滅した者はその月まで月割を以ってその都度支給されます。

（死亡に対する年金支給）

受給権者が死亡した時は次に掲げる順位の遺族に支給されます。

①配偶者（婚姻の届出をしていないが、本人の死亡当時上婚姻関係と同様の事情にあった方を含む）②子、養父母、実父母、孫及び兄弟姉妹で、死亡当時受給権者と生計を共にしていた者③年金の支給を受けるべき同順位の遺族が、二人以上あるときはその一人の請求は、全員のためその全額についてしたものとみなしその一人に対した支給は全員に対してしたものとみなす。

早く着物を着せて水道管

ボクは、毎日寒い外ではだかで暮しています。皆さんは温かい室内でボクのことを忘れて暖かく暮しています。

ボクはもう我まんできません。〝破れっしてしまう〟

ボクはよい着物ははしくありませんが「なわや、ボロきれ」はどこの家にもあります。それを防寒着にして着せてくれればよいのです。

ボクも皆さんと同じように暖かくなれば〝ヨダレ〟が出るようになります。給水栓を少しあけ、少量の水を出しておけば凍りません。

早く着物を着せてね！

民生委員決る

このほど赤池町民生委員の改選が行なわれ、次の方々に決まりましたが、児童委員も兼ねています。任期は、三年です。敬称略す。（カツコ内は担当地区）

坂元重松（上野一、二、三支所）森千代子（上野四、五支所）長野龍次郎（六、七、八支所、猿田、吉ケ浦）久原ますみ（下町、大和町職安住宅、昭和町）伊藤利子（本町旭ケ丘、貴船）三木春男（車道、稲荷、暁町、徳人原）池田吉六（九支所、上の原、板屋団地）亀谷松次（伏原、町営伏原）山田政蔵（高尾、上、下寿町）藤岡登（十八支所、東、新町）桧皮キミ子（中町県営伏原、南町）阿部貫一（北町、西町、下西町、下高尾、伏原五）

外科医長に古瀬氏が就任

このたび町立病院に古瀬達郎氏が外科医長として就任しました。

古瀬氏はこれまで、佐賀県鎮西町の診療に勤務していましたが、赤池町の招きで、このほど就任しました。

（九州大学医学部卒）

町立病院の休診

十二月二十八日から一月三日まで休診致します。

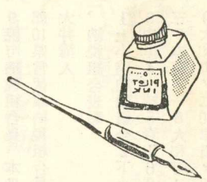
なお急患はこの限りではありません。

広報功労者で受賞

大谷氏

このほど福岡県広報大会の席で、県広報協会長（亀井光）から広報功労者として、赤池町役場総務課企画係長、大谷孝進氏が表彰を受けました。

大谷氏は永年、町の広報業務に尽され、町行政を広く町民に周知した功績が認められたもの。



読者の声

上野三支所の武末募さんがこのほど、広報あかいけに一読者として「広報あかいけ」と題して記事を寄せられました。

拝読は何より楽しみです。七月号の紙面に硲さんの善行が掲載され、この善に合掌させられました。年寄りは淋しいもの、まして老人ホームで生活されている人々の心中は、どんなだろうかと思うだけで何一つ出来ない自分に比べ、硲さんは長い年月続けられた行為に私は〝ありがとう〟と心からと弥栄（びえい）祈りさせられました。

ことしは町長選挙のとしですが、前回行なわれた参議院議員選挙の投票率の低かった事は無ろん関心薄もありましょうが、時期が良くない。

切捨ご免時代の武士でさえ苗運びの百姓には道を譲っていたと聞くのに、農民のことなら主公が一番よく判っとるまかしとき、皆さんの心を心としての政治云々と〝選挙対策用語〟だけにしてもらいたくないと思いつつ投票に行った次第です。

長いものにはまかれろの時代は過ぎた。

勇気を出して世論を起そう。おごるものには久しからずと知るお豪（えら）方の事謙虚（けんきょ）な気持ちで世論に耳を傾けて頂きたい。

こんど行なわれる町長選挙には、他人ごとではなく自分のこととして、政治に関心を示し棄権を無くし、投票していただきたい。

広報あかいけ編集係へ、町民からの声が寄せられています。こん月号から読者の声の欄を設けました。

読者の声は個人を批判する声は掲載致しません。

したがって、町を明るく建設する声のみを掲載致します。こん後とも読者の声をお待ちしていますので、寄稿下さいますようお願い申し上げます。

税金は私たちのくらしにかえってきます

こん後皆さんの広報紙にお願いして、国税に関するいろいろのことをお知らせしますのでぜひご覧いただきたいと思います。

さて、今月は手はじめに国税が皆さんのくらしにどれだけ還（かえる）かお知らせしましょう。

田川税務署が、一年間に納めた国税の総額は約十六億円になります。田川市郡の皆さんが一人当り約九千円納めていただいたことになります。

一方田川十ケ市町村が私たちの住民の幸福と繁栄のため昭和四十六年度の財源として計上した歳入予算等の総高は約十億円で、そのうち国から地方交付税、交付金等により交付をうける金額は、約七十億円であります。これを一人当りにすると約三万八千円となります。

このほか福岡県が国から補助される金額が約九百億円あり、これは県民一人あたり約二万四千円となります。したがって田川市郡の皆さんは一人当り約九千円の国税を納めて、約六万二千円を還してもらっている計算となるわけです。

税金は、私たちが生活の向上と安定を願うかぎり、どうしても負担しなければならない私たちの社会の共通の経費ですから、自ら正しい計算をしていただきたいものです。

なお、本年度はドルショック等による経済不況のため、税収不足が生ずることが予想されます。このため、税務署の徴税強化を心配されるむきもあるようですが、そのような心配は全くありません。

この不足分は国債の発行等の財政措置によりまかなわれるからです。

税務署では皆さんが適正な自主申告をして、期限内に納税していただくことのみを期待しています。

なお税務署では、税についてお判りにならないときはいつでも相談に応じておりますのでご気軽においで下さい。

会長に太田達彦氏

ライオンズクラブ

下田川ライオンズクラブは赤池、金田、糸田、方城の四カ町に在住する住民三十八人で構成さています。赤池町から十三人が入会しています。

このほど役員の改選が行なわれ、上野原田町の太田達彦氏が四代目会長に選ばれました。

ライオンズクラブは地域社会に奉仕することを目的として、これまで数多くの奉仕活動を続けてきましたが、その一端を紹介しましょう。

○毎年新入学児童に対し、（下田川四ケ町小学校）ランドセルカバーを寄贈○下田川四ケ町の危険区域に交通標識の建設○防犯水銀灯の設置○新聞少年を激励○観光上野峡に固定ベンチの設置○下田川四ケ町派出所に携帯無線機贈呈○赤池金田両駅に塵箱設置○水難救助具の寄贈○身体障害者に対する助成、以上はその一端に過ぎないが、この外にクラブの子どもさん達と天郷老人ホームを訪れたところ衣食住については何等不自由しない老人達が、小さい子ども達が心をこめて踊っている姿を観て、自分の子どもや、孫たちのことを思い浮べたのか涙を流し、中にはすすりなく老人もいて非常に老人達からよろこばれました。

老人達の一番求めているのは精神的な慰めではなかろうかと痛感しました。

自動料金箱の取付けは禁止されています

自動電話へのきりかえが近づきますと、自動料金箱（自動電話器に取付けて、十円硬貨を入れないと電話がかからない装置）やその他いろいろの附属器具などが業者から売り出されると思いますが、この種の料金箱などは故障が起りやすいうえ、電話器や局の機械にまで故障をおよぼした例が沢山あります。自分自身機械の故障は勿論のこと、ほかの方も大変迷惑がかかります。

したがって、自動料金箱などを、お求めになっても電話器に取付けることはできないことになってしますのでご注意下さい。また、このような品物をみなさんのお宅にお伺いして販売し、その場で代金をいただく業者は局と無関係です。

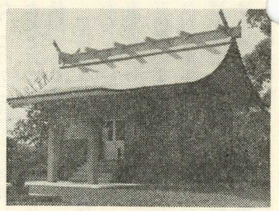
もし品物にご不審の点がありましたら、次の電報電話局にお問い合せください。

金田局（②―〇三〇〇）

神社の化粧直し

「貴船神社」

赤池の貴船にある貴船神社の化粧直しが、去る八月から始められ十一月に完成しました。この神社は景行天皇の御代以前の古宮で、下田川に散在する地方十二貴船神社の宗社として有名なお宮であります。工事費は約五百万円で化粧直しをしました。



この神社の管理は九区氏子（宇都宮重次区長）がしています。

入学案内

県立直方ろう学校

直方の県立ろう学校では、三才のお子さんからお預りして保育を通じて言語教育、聴覚教育をしています。

遠路の方は宿舎があり、生活保護家庭の方寮育施設があります。

幼稚部、小学部、中学部、高等部とあって、高等部では職業教育を施し、卒業の時は立派に独立して社会へでています。ただいま昭和四十七年度の入学案内をいたしております。

くわしいことは、直方市頓野、福岡県立直方ろう学校（電話直方②5351）にお問い合せ下さい。

お誕生日おめでとう

町内の四つの保育所の園児達の、十二、一月生れは次のとおりです。

お誕生日おめでとう。

（十二月生れ）

【市場保育所】敬称略す。

繁永貴仁（五才）白川照彦 長谷川禎子（六才）（一月生）白川美佐（三才）日高すみよ・木下留理子・林康亮・宇野佐織（十二月生）【赤池保育所】居原昌美（四才）綿永ひとみ、松尾正治・天野栄子以上（五才）吉村浩一・結城和生（六才）（一月生）日野久美子（三才）宮島司（四才）松江竜二・大竹章子・海野美寿・柏木一宏以上五才）（十二月生）【中尾保育所】杉本みかえ（五才）（一月生）松岡雄大・松本和宏・花元和夫以上（三才）中山進・玉井秀紀・川口美香・橋口江里子以上（四才）菅日出男、奈木野健二以上（五才）（十二月生）【上野保育所】長尾智博・石橋安江以上（五才）安延幸司（六才）藤村明美（七才）（一月生）熊谷式部・山〇光俊・太田明美以上（四才）香月友喜・柴田秀一・小松安彦以上（五才）

猿田地区で住民の広場開き

十一月十四日猿田地区（公民館長木村伴太郎氏）では子供の広場を地区の人達の手で造りその落成式をかねて運動会を開きました。

子どもから老人まで参加してパン喰い競走や玉入れに、パパやママの地区マラソンなど終日をたのしくすごし有意義な思い出にのこる一日でした。

又運動会のあい間には子供会の友達が交替で地区を巡廻して空巣の防止や火災予防につとめました。

写真はたのしい玉入れ競技

プロパンガスの安全な使い方

生活になくてはならない、プロパンガスも、ちょっとしたミスで大きな事故を起します。ごく当り前のようなことを知っておく事が事故を防ぐ最も良い方法なのです。

是非よく読んで、自分のものにしておきましょう。

一、ボンベは、必ず屋外に置きましょう。二〇kg以上の大きなボンベを置いている家庭は、連倒しないようにチェニロープ等に固定して下さい。

二、外出のとき寝るとき、使用を終えた時は
①コンロのコック
②壁ぎわの元栓を完全に締めましょう。

三、使用していないコックには、必ず盲キャップをかぶさせて下さい。万一誤ってコックを開いても事故を防げます。

四、古いゴム管で、ヒビ割れができたものは危険です。販売店に相談して新しいものと取り替えて下さい。

五、ゴムホースは必ずホースバンドで締め付けて、はづれないようにして下さい。

六、ガスストーブ等の大きな燃焼器具を密閉した部屋で長い間使用しますと、酸素が不足して、一酸化炭素を発生しますので、時々換気に注意して下さい。

七、プロパンガスを使う前にはガスが洩れていないか臭を確めましょう。特にプロパンガスは空気の一倍半から二倍も重いのでもしも洩れた時は低い所にたまりますので、ご注意下さい。

八、ガス洩れに気付いた時は絶対に火の気を近づけないようにして下さい。

早朝マラソンに参加しよう

毎月第三日曜日に行なっている早朝マラソンは皆様の協力で回を重ねて五回延べ数十一キロとなりましたもう今では小学校一年生の友達から中学・高校そして家庭の主婦の方まで六十五～六十六名まで参加して、朝の一刻を汗にして、体力づくりに上野峡コースを走っています。

「始めはきつかったが今は平気だよ」といっています。町民の皆さん交通戦争と公害の今日此の頃、大人の方はストレス解消に、子供の人々は体力の養成と勉強へのみちづれにしましょう。町民の皆さんの参加をお待ちしてます。

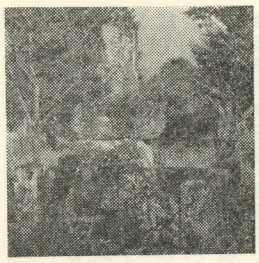
最後に猿田地区子供会の、父兄の方が毎日参加して伴走してくださっている事を追記し皆さんの参加を一層お願いします。

ふるさとの伝統

広報あかいけの紙面に町の伝統や古蹟、古事などを掲載して、うつり変る町の姿を紹介します。町民の皆さんで、資料をお持ちの方は、役場総務課企画係へご提供下さいますようお願いします。

地名伝統

【赤池】日本武尊が赤池に宿った時、岩屋の地には熱病を起す毒気が多くて、一度この毒気にあえば人も馬もたおれてしまうので、尊は大変悩んだ、尊も或る夜岩屋の地のこの熱病を起させる毒気を消すためには、貴船山の北の麓から湧いてでる霊水をつぼに入れ、いくさにもっていくようにとの夢を見、起きて見ると、ごんこんとして霊泉が湧いていたので、よろこんで汲み盗ぞく征伐に持って行きましたが首尾よく打ち亡すことができたので、再びここに立ち寄って、「まことに不可思議なことである、この池こそ我賀池である」と言ったのが後世に至って赤池と言う名になったと伝説が残っています。



写真は上野鋤木田にある孝子善作の墓

【上野】日本武尊が今の上野に立ち寄り、地方の状況をごらんになるため国見山に登られる時、一歩一歩あがり、ここは「あがりのかな」と言ったのが始まりで、それから土着していた人々が「上り野」と言うようになって、上野といわれるようになったと、社記に伝えられております。

【市場】昔は市津村と石松村との二ケ村に分れていました。これが二百余年前合併したことについて、次のような伝説があります。

市津に往昔城があった時代から、商いも盛んに行われ、市津は、七五〇石、石松は二五〇石の年貢を納めていましたが、市津は次第にさびれるばかりであるのに対して石松は土地も多く従って村も豊かでありました。

ここに両村を名併して一村にしょうと石松村に交渉しましたが、このままでは市津村が自滅の外はないとあって、郡奉行が仲裁して合併したのであります。

この由来以外、市場の呼称の伝説の資料は残されていません。

孝子善作の墓

上野鋤木田に生れ幼少の頃より家業に励み、両親に対し大変孝行であり、近隣に対しても親切で税の滞りもなく全納し、豊前の地方で模範とされていたところが、その当時の藩主にきこえ、中召しの先栄に浴し（現在の表彰）たほどの親孝行者でした。

天保十二年九月逝去しています。

現在上野鋤木田の墓地に葬られています。